

肩甲骨に発生した脈瘤性骨嚢胞の猫の1例

水谷真也^{1),2)†} 水谷祐子²⁾ 五田嘉倫³⁾ 浅沼武敏¹⁾
鳥巢至道⁴⁾ 田邊美加⁵⁾ 日高勇一⁶⁾



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/1/78_e8/_article/-char/ja

- 1) 岡山理科大学 獣医学部獣医学科 (〒794-8555 今治市いこいの丘 1-3)
- 2) 宮崎大学 農学部附属動物病院 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1)
- 3) 岡山理科大学 獣医学教育病院 (〒794-8555 今治市いこいの丘 1-3)
- 4) 酪農学園大学 獣医学群獣医学類 (〒069-8501 江別市文京台緑町 582)
- 5) 動物病理診断センター (〒809-0011 中間市岩瀬 1-4-11)
- 6) 宮崎大学 農学部獣医学科 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1)

(2024 年 5 月 30 日受付・2024 年 10 月 15 日受理・2025 年 1 月 16 日公開)

要 約

症例は7歳、避妊済みメスの雑種猫であり、左肩部の腫脹、慢性跛行及び左前肢の激しい疼痛を主訴に来院した。X線検査により、症例の腫脹した左肩部は左肩甲骨の腫瘍性病変と診断された。CT検査により、腫大した左肩甲骨は皮質骨の膨隆と菲薄化、内腔に多発性の嚢胞状の構造物を伴っていることが確認された。症例は、疼痛の改善を目的に左前肢断脚術が行われた。術後経過は良好で、術後約3年以上経過した現在も再発なく経過している。病理組織学的検査により、左肩甲骨腫瘍は脈瘤性骨嚢胞と診断された。脈瘤性骨嚢胞は非常に珍しい良性的骨原発腫瘍様病変で、骨の膨張性かつ融解性を示す病変のため、類似した画像所見を示す骨肉腫などの骨原発腫瘍との鑑別が重要と考えられた。
——キーワード：脈瘤性骨嚢胞，骨腫瘍様病変，猫。

----- 日獣会誌 78, e8～e14 (2025)